

令和元年の刑法犯認知・検挙状況

これは、(公財)全国防犯協会連合会発行「安心な街に」2020年4月号に掲載された標記記事の概要を紹介するものである。

1. はじめに

警察庁は、令和元年の「刑法犯認知・検挙状況」(確定値)をまとめた。刑法犯認知件数は、前年と比べて減少し、前年に引き続き戦後最少を更新した。検挙件数、検挙人員はいずれも減少した。また、検挙率は前年より上昇した。

2. 刑法犯 認知・検挙状況

表1のように、前年に比べ認知件数は68,779件(8.4%)減少し、前年に続いて戦後最少を更新した。

検挙件数は、前年より15,203件(4.9%)減少した。検挙人員は、前年より13,487人(6.5%)減少した。一方、検挙率は1.4%上昇した。

人口千人当たりの認知件数は5.9件で、戦後最少だった平成30年の6.5件を更に下回った。

刑法犯のうち少年の占める割合は、前年に比べ、3,575人(15.2%)減少した。

表1 刑法犯 認知・検挙状況

区 分	R 1	H30
刑法犯認知件数(件)	748,559	817,338
人口千人当たりの認知件数(件)	5.9	6.5
検挙件数(件)	294,206	309,409
検挙人員(人)	192,607	206,094
うち少年(人)	19,914	23,489
検挙率(%)	39.3	37.9

3. 罪種別の認知・検挙件数

(1) 凶悪犯

凶悪犯とは、殺人、強盗、放火、強姦をいう。認知件数は4,706件、検挙件数は4,240件、検挙人員は4,225人(うち少年は457人)、検挙率は90.1%であった。前年に比べ、認知件数は194件(4.0%)減、検挙件数は97件(2.2%)減、検挙人員は32人(0.8%)増、うち少年は6人(1.3%)減、検挙率は1.6%上昇した。

(2) 粗暴犯

粗暴犯とは、暴行、傷害、脅迫、恐喝、凶器準備集合をいう。認知件数は56,753件、検挙件数は47,989件、検挙人員は50,789人(うち少年は3,484人)、検挙率は84.6%であった。前年に比べ、認知件数は2,386件(4.0%)減、検挙件数は1,360件(2.8%)減、検挙人員は997人(1.9%)減、うち少年は139人(3.8%)減、検挙率は1.2%上昇した。

(3) 窃盗犯

認知件数は532,565件、検挙件数は180,897件、検挙人員は94,144人(うち少年は10,813

人)、検挙率は34.0%であった。前年に比べ、認知件数は49,576件(8.5%)減、検挙件数は9,647件(2.8%)減、検挙人員は8,225人(8.0%)減、うち少年は2,350人(17.9%)減と、それぞれ減少した。検挙率は1.3%上昇した。

侵入盗の認知件数は57,808件、検挙件数は37,083件、検挙人員は6,106人(うち少年は553人)、検挙率は64.1%であった。前年に比べ、認知件数は4,937件(7.9%)減、検挙件数は2,154件(5.5%)減、検挙人員は455人(6.9%)減、うち少年は90人(14.0%)減と減少した。検挙率は1.6%上昇した。

乗り物盗(注1)の認知件数は187,101件、検挙件数は17,271件、検挙人員は8,026人(うち少年は3,081人)、検挙率は9.2%であった。前年に比べ、認知件数は20,698件(10.0%)減、検挙件数は1,306件(7.0%)減、検挙人員は1,305人(14.0%)減、うち少年は735人(19.3%)減と減少した。検挙率は0.3%上昇した。

非侵入盗(注2)の認知件数は287,656件、検挙件数は126,543件、検挙人員は80,012人(うち少年は7,179人)、検挙率は44.0%であった。前年に比べ、認知件数は23,941件(7.7%)減、検挙件数は6,187件(4.7%)減、検挙人員は6,465人(7.5%)減、うち少年は1,525人(17.5%)減と減少した。検挙率は1.4%上昇した。

(注1)乗り物盗とは、自動車、オートバイ、自転車などを盗むことをいう。

(注2)非侵入盗とは、ひったくり、すり、自動車盗、万引き、置き引き、自販機ねらい、車上ねらいなどをいい、ひったくり、すり、自動車盗は重要窃盗犯に該当する。

(4) 知能犯

知能犯とは、詐欺、横領、偽造、流(とく)職、背任をいう。認知件数は36,031件、検挙件数は19,096件、検挙人員は10,965人(うち少年は901人)、検挙率は53.0%であった。前年に比べ、認知件数は6,563件(15.4%)減、検挙件数は595件(3.0%)減、検挙人員は1,315人(10.7%)減、うち少年は254人(22.0%)減と減少した。検挙率は6.8%上昇した。

知能犯のうち**詐欺**の認知件数は32,207件、検挙件数は15,902件、検挙人員は8,843人(うち少年は808人)、検挙率は49.4%であった。前年に比べ、認知件数は6,306件(16.4%)減、検挙件数は584件(3.5%)減、検挙人員は1,116人(11.2%)減、うち少年は257人(24.1%)減と減少した。検挙率は6.6%上昇した。

(5) 風俗犯

風俗犯とは、賭博、猥褻(わいせつ)をいう。認知件数は8,710件、検挙件数は6,904件、検挙人員は5,406人(うち少年は502人)、検挙率は79.3%であった。前年に比べ、認知件数は402件(4.4%)減、検挙件数は187件(2.6%)減、検挙人員は237人(4.2%)減、うち少年は35人(6.5%)減と減少した。検挙率は1.5%上昇した。

(6) その他の刑法犯

その他の刑法犯とは、公務執行妨害、住居侵入、逮捕監禁、器物損壊等上記以外の刑法犯をいう。認知件数は109,794件、検挙件数は35,080件、検挙人員は27,078人(うち少年は3,757人)、検挙率は32.0%であった。前年に比べ、認知件数は9,658件(8.1%)減、検挙件数は3,317件(8.6%)減、検挙人員は2,745人(9.2%)減、うち少年は791人(17.4%)減と減少した。検挙率は0.1%低下した。

4. 重要窃盗犯

(1) 概要

重要窃盗犯とは、ひったくり、すり、自動車盗をいう。認知件数は69,645件、検挙件数は42,722件、検挙人員は7,793人(うち少年は790人)、検挙率は61.3%であった。前年に比べ、認知件数は6,929件(9.0%)減、検挙件数は3,238件(7.0%)減、検挙人員は981人(8.0%)減、うち少年は211人(21.1%)減、検挙率は1.3%上昇した。

重要窃盗犯の被害者69,645人を年齢別に見ると、50歳代が9,482人で最も多く、次いで40歳代が9,212人、70歳代が8,268人、30歳代が6,668人、20歳代が5,712人であった。

(2) 自動車盗

自動車盗の認知件数は7,143件、検挙件数は3,845件、検挙人員は778人(うち少年は96人)、検挙率は53.8%であった。前年に比べ、認知件数は1,485件(17.2%)減、検挙件数は403件(9.5%)減、検挙人員は136人(14.9%)減、うち少年は73人(43.2%)減と減少した。検挙率は4.6%上昇した。

(3) ひったくり

ひったくりの認知件数は1,553件、検挙件数は950件、検挙人員は370人(うち少年は93人)で、検挙率は61.2%であった。前年に比べ、認知件数は367件(19.1%)減、検挙件数は507件(34.8%)減、検挙人員は25人(6.3%)減、うち少年は36人(27.9%)減と減少した。検挙率は14.7%低下した。

(4) すり

すりの認知件数は3,141件、検挙件数は844件、検挙人員は539人(うち少年は48人)で、検挙率は26.9%であった。前年に比べ、認知件数は140件(4.3%)減、検挙件数は174件(17.1%)減、検挙人員は65人(10.8%)減、うち少年は12人(20.0%)減と減少した。検挙率は4.1%低下した。

以上